



新しい医学図書館

医学部教授 伊藤真次

医学部の図書室は創立以来の長い間を穴倉になった物置のようなところにおしこめられていたが、最近ようやく待望の図書館新築工事がすすんで、一部引越するのも間近になった。今までの図書室があまりにも貧弱で、閲覧室さえない有様であったから、個々の教室が書斎風の図書室をもち、手近い本を買いこんで間にあわせるというおそろしく時代ばなれなことをしていたが、これでは最近の情報ラッシュに間にあわないこともちろんで、図書館の必要性が痛切に感じられるようになった。熱心な希望がかなって、いま新しい医学図書館ができることになったので、このさい内容を充実して他大学の医学図書館にひけをとらぬものにするともに、機能面を改善して利用者に充分満足して活用してもらえらる図書館にすることを考えている。

まず運営に関して、今までは少数の教授で構成された図書委員会があったが、これを改組して助教授・講師・助手の代表者を加わえ、この人たちを窓口にして医学部内全研究者の忌憚ない意見と希望をとり入れることにした。

現在さしせまった問題としては、学生図書の充実、夜間開館、機械化の促進があり、今後の重要問題として、関係他部局との共同利用、レファレンスワークがある。新しい医学図書館は本学における生物医学に関する情報活動の中心になることは間違いないであろう。はじめ教室単位であったものが、医学部と附属病院の二つの図書室を軸にするようになり、ついでこの二つが合併して医学図書館ができたが、これから先は、関係部局の協力によって医学系図書館に発展するものと思われる。研究情報の爆発的な増加からみて、小さい単位で情報を蒐集することは不可能になっているからである。ただこれを実現するためには、何より図書館業務の能率化が緊要である。一例をあげると、センターの図書館と利用者(部局)との間に電話線タイプでの連絡をすること、センターには要求された情報を直ちに提供するシステムを備えることがある。ここでもレファレンスワークの必要性があり、これをどんな形で実現するかについて目下検討している。

◆ 会 議

第38回 図書館委員会

〈と き 昭和44年3月18日(火)〉

〈と ころ 附属図書館会議室〉

1. 第1種閲覧個室および第2種閲覧個室の利用について

第1種閲覧個室(6室で収容人員6名)および第2種閲覧個室(9室で収容人員27名)の利用期限が3月31日で満了となるため、4月1日以降の利用者の選考について審議の結果、次のとおり決定した。

 - (1) 第1種閲覧個室, 6名(申込者全員)選考した。
 - (2) 第2種閲覧個室, 申込者34名中次の順位で選考した。

第1順位	論文作成期日が6月30日および9月30日までの者	7名
第2順位	新規申込者	17名
第3順位	前回の利用者で全期間利用出来なかった者および前々回以前に利用したことがある者	6名中抽選で3名
2. 文学部北方文化研究施設室および教育学部教官個室明け渡し後の利用について

前回提案した本館(案)について審議の結果、次のとおり決定した。

 - (1) 第2種閲覧個室を5室増設するとともに教科書コーナー, 国連コーナーを新設する。
 - (2) 北方資料室および近代文学資料室を拡張する。
 - (3) 国連コーナーと関連して法令判例コーナーを拡張する。
3. 教養分館委員会内規について

館長から教養分館設置規程に基づく標記内規(案)について提案理由の説明があり審議の結果、全員異議なく了承された。
4. そ の 他
 - (1) 館長から教養分館長候補者として、教養部長から文学部阿部保教授の推せんがあったので、手続きをすすめる旨報告があった。
 - (2) 部長から本年度教官指定図書について発注時期を繰り上げたいこと、従ってその予算額については、一応前年度と同額と考えたい旨の説明があった。

第39回 図書館委員会

〈と き 昭和44年4月30日(水)〉

〈と ころ 附属図書館会議室〉

1. 附属図書館教養分館設置について

館長から次のとおり説明があり、全員異議なく了承された。

 - (1) 4月1日付をもって附属図書館に教養分館が設置され、同日付をもって分館長に文学部阿部保教授が発令された。
 - (2) 教養分館設置に伴い、4月1日付をもって教養分館委員会が設置され、委員には北村教授, 大畑助教授, 小崎助教授(以上文学部), 井手教授, 渡会助教授(以上理学部), 加藤助教授(教育学部)が委嘱された。
 - (3) 事務組織は、事務主任のもとに閲覧掛長を置き、事務主任には本館整理課長補佐を充てることとし、閲覧掛長には能条事務官が発令された。
 - (4) 分館の建物は、11月上旬に竣工予定であるが、それまでは現状どうりの運営をおこなうこととする。
 - (5) 分館の建物が出来た時点で整理、閲覧の2掛を考えている。
2. 昭和45年度概算要求について

館長から各要求項目について説明した後、新たに要求に加えた本館に置く電子計算機事項についてその主旨と理由を説明し、全員異議なく了承された。
3. 昭和43年度決算について

事務部長から決算書の各項目毎の説明があり、全員異議なく了承された。

4. 昭和44年度国立大学図書館協議会理事会および日米大学図書館会議組織委員会について
館長から4月21日～22日の2日間東京大学附属図書館で開催された旨報告があった。
5. 昭和44年度大学図書館関係主要予算額各事項について
館長から特別図書費、機械化に伴う要求等関係予算等について、事項別の説明があった。
6. 国立大学図書館協議会北海道地区協議会について
館長から4月25日日本館において開催された旨報告があった。

第1回 教養分館委員会

<と き 昭和44年4月17日(木)>

<ところ 附属図書館会議室>

1. 教養分館の設置について
 - (1) 館長から本館の部、課長等職員の紹介と教養分館委員会委員の紹介があった。
 - (2) 館長から教養分館設置までの経過報告があり、続いて本館と分館との関係等についての一般的原则にふれた後、これ等の具体的問題については、今後教養分館委員会で審議されたい旨の説明があった。
 - (3) 事務部長から教養分館事務組織についての説明と建物ができるまでは現状のままできたい旨の説明がありました。

第2回 教養分館委員会

<と き 昭和44年4月25日(金)>

<ところ 教養部応接室>

1. 教養分館建物新営に伴う設備費の要求について 各項目毎の検討を行なった。

全学図書(担当)掛長会議

<と き 昭和44年4月17日(木)>

<ところ 附属図書館会議室>

1. 事務部長から4月1日付をもって附属図書館に教養分館が設置されたこと、北海道大学所蔵学術雑誌総合目録(和文編)が作成されたこと、本年度附属図書館概算要求中の電子計算機装置についてそれぞれ説明があった。

第1回国立大学図書館協議会北海道地区協議会について

さる4月25日日本館において上記協議会が開催され、本年度国立大学図書館協議会総会提出議題について協議した結果、次のとおり決定した。

- ① 図書館業務の機械化について(北海道大学提案)
- ② 図書館職員の採用について(室蘭工業大学提案)
- ③ 図書購入費の大幅増額について(室蘭工業大学提案)

続いて昭和44年度理事館の選出に移り北海道大学(地区連絡館)、北海道教育大学を選出した。

なお、本協議会は今後毎年定例に開催することとなった。

日米大学図書館会議について

第1回日米大学図書館会議が昭和44年5月15日から5月19日まで5日間にわたり東京プリンスホテルで開催された。この会議には多数の日米大学図書館関係者が参集して当面する大学図書館の問題につき各発題者からの問題提起と熱心な討議が行なわれ、日米大学図書館の事情が浮き彫りにされ、今後の大学図書館活動に非常に有意義な刺戟を与えた。今後再びこのような会議が開かれることを期待したい。参考までに討議された題名を列記してある。

大学教育における図書館の役割、大学図書館の利用について、大学図書館の評価、図書館職員専門教育、刊行物の入手と交換、人的交流について、国内の書誌調整とその機械化、図書館業務と電子計算機、協会、センターとその奉仕活動

資料紹介

Science Citation Index 1968年版

SCIは、アメリカの科学情報研究所 (Institute for Scientific Information) が、コンピューターによる情報処理システムを用いて1960年から発行している世界の主要な科学技術文献に対する引用索引誌である。

本館がこのたび購入したSCIの1968年版は、過去に発表されたある学術文献が、当該の期間中に誰によっていかなる専門雑誌に引用されたかを明らかにしている。SCI 1968年版においては世界の2,000種以上の主要な科学技術雑誌に引用された約30万件の文献について、140万件以上の引用論文を収録している。

研究者はこの索引を検索することにより、ある学説乃至は研究成果が現在いかに評価され、学界にどのような影響を与え、どのように修正され発展しつつあるかを確認するための手がかりを得ることができよう。SCIの各年版をそろえることによりこのことは更に可能である。

SCIはCitation Index, Source Index, Permuterm Subject Indexの三つのIndexよりなり、それぞれQuarterlyで分冊発行ののち、年間の累積版が出ることになっている。これらは利用の目的および方法がそれぞれ異なっているので、以下簡単に説明したいと思う。

*Citation Index

最近1カ年の間に世界の主要科学技術雑誌に引用された文献 (References) を著者名順に記載している。これらの文献の中には、雑誌論文・単行本・学位論文・特許などのほか、未刊の論文・会議等における発表・個人的な情報交換なども含まれる。同一著者の文献は発表年順に配列され (但し未刊のものは最初におかれる)、雑誌の略誌名、巻数、頁が記されている。これらの文献の下にこれを引用した雑誌論文 (Sources) が著者名順に配列され、これらもまた略誌名、発表年、巻数、頁の形で示される。

Cited Author	Citing Author	Publication	Cited Reference Year	Citing Source Year	Volume	Page
KARPLUS M.....*		*PRIVATE COMMUNICATIO=				
.....		-TO BE PUBLISHED				
PEDERSEN L		J CHEM PHYS		67	47	4751
.....59-		J CHEM PHYS.....			30	6
BRAAMS JFH		REC TR CHIM		68	87	193
BRUNE HA		TETRAHEDRON		68	24	79
.....59-		J CHEM PHYS.....			30	11
ABRAMOVI. RA		TETRAHEDRON		68	24	705
ACHESON RM		J CHEM S C		68		351
BAKER KM		TETRAHEDRON		68	24	1651
BAMBURG JR		TETRAHEDRON		68	24	3329
BARTON JW		J CHEM S C		68		28
(以下 略)						

これは M. Karplus の論文 J. Chem. Phys. Vol. 30 (1959), p.11- が、K. M. Baker によって Tetrahedron. Vol. 24 (1968), p. 1651- に引用されたことを示す。

いま実例として Citation Index 1968, Jan.-Mar. を用いて, Martin Karplus の論文 Contact electron-spin coupling of nuclear magnetic moments. (Journal of Chemical Physics, Vol. 30, p. 11~15) が, この期間中にどのように引用されたかを検索すれば前表の通りである。ここにはその一部を示したが, 実際にはこの文献を引用した 35 の論文を知ることができる。

*Source Index

上に示したように Citation Index においては, 引用された文献 (cited article) およびこれを引用した雑誌論文 (citing article) は, いずれも著者, 発表年, 略誌名, 巻数, 頁のみが示され, 論文名が不明である。ところで SCI を利用する際には cited article の論文名はすでに知られているわけで, 今は citing article の論文名が分れば充分である。このために利用するのが Source Index である。

Source Index では, Citation Index に示された citing article を著者名順に配列し, 略誌名, 巻数, 頁, 発表年を示したのち, 論文名を明記している。例えば前述の Karplus の論文を引用した K. M. Baker の論文名を Source Index で検索すれば次の通りである。

BAKER KM BARTLEY JP
TETRAHEDRON 24 1651 68 13R N4 A5354
EQUILIBRIA AND NMR SPECTRA OF HYDROXYMETHYLENE
KETONES

Citation Index では共著者のある場合でも, 最初に記された著者のみが示されるが, Source Index においては共著者も併記され (上記の例では J. P. Bartley), また見出しにあげた共著者には最初の著者へ参照が付けられている。

Source Index は, citing articles の著者名索引であるため, これを特定の研究者のその年度における論文目録として利用することもある程度可能である。

*Permuterm Subject Index

これは要語による一種の主題索引である。即ち各論文に取り上げられた用語に関連のある一連の要語を設定し, これらの要語から必要論文を検索することができる仕組みになっている。本館には未だこの索引が入荷していないので紹介は後にゆずりたい。

以上紹介した SCI は, 本館 4 階参考図書閲覧室におかれており, 理工系諸部局の熱心な希望により 1968 年版以降も毎年継続購入の予定である。学内外の研究者による本資料の十分な活用が期待される。



歯学部は, 昭和 42 年 6 月 1 日に設置された。しかし, 何分にも学年進行の途上であり, また設置後日も浅いということもあって, 現在, 歯学部には, 事務組織上では, 図書掛は設置されいず, 図書に関する業務は, 図書掛が設置されるまでの間, 暫定的に教務掛が分掌している実態である。

昭和44年3月31日現在の蔵書構成は、和書822冊、洋書448冊、和雑誌45種（寄贈によるもの31種）および洋雑誌53種（寄贈によるもの4種）、並びに医学部附属病院（旧歯科診療科）から管理換を受ける予定で、事実上、歯学部図書室に保存し、供用している蔵書が、和書259冊、洋書274冊、和雑誌22種および洋雑誌20種である。

学年進行に伴い、本年4月に本学教養部の歯学進学課程を修了した37名の第1期生を迎えたが、その対策として、「学生に少しでも充実した図書室を!!」をというスローガンの下に、歯学部長をはじめ、教職員の真摯な努力によって、わずかではあるが、教育に関する図書（学生用の図書）も増え、また、「北海道大学歯学部図書利用規 昭和44年3月、海大歯規第4号」も制定されて、ようやく図書に関する業務も円滑にすべり出した感じのする昨今である。

しかし、学生からは、図書室の充実を積極的に推進してほしいという強い要望もあり、特に図書室の開室時間の延長の問題には、如何に対処すべきか苦慮している段階である。

このような、学生に対するサービス面（閲覧および貸出等）の問題のみならず、本質的に努力し、改善、合理化しなければならない問題も山積している。

その一例として、本年の3月10日および11日の2日間にわたっての、文部省歯学視学委員（東京歯科大学長 杉山木二、東京歯科大学歯学部長 桐野忠大）の歯学部視察についての講評で、改善充実しなければならない問題点のうち、諸設備については、「歯学部専用の図書および学術雑誌が極めて少ないので、基準に達するよう早急に充実を」という旨の指摘を受けたことがあげられるが、勿論、このような指摘を受けるまでもなく、「大学院歯学研究科設置計画」を完全に実現するためにも、また、本学部の教育研究に支障がないようにするためにも、歯学部所蔵の蔵書を増やすことは、急務であると平素から認識している。

「医学、歯学関係大学院設置基準要項（昭和29年7月、大学設置審議会決定）」によれば、図書および学術雑誌として、歯学部（歯学専門課程。本学教養部歯学進学課程を除く。）で、1) 図書20,000冊以上 2) 学術雑誌200種以上（うち半数以上は外国雑誌とし歯科専門雑誌20種以上を含む。）の要件を具備しなければならない。

しかし、歯学関係の図書は、出版物の絶対数が少ないうえに、価格も高く、一口に図書20,000冊、学術雑誌200種といっても、容易ではないので、新刊購入の他に、本学医学部関係の名誉教授をはじめ、関係各方面に寄贈依頼を出すなど、四苦八苦して、目下、本を増やすのに懸命である。また、医歯学関係の研究においては、専門雑誌の需要度が高いので、雑誌の種類数を増やしていくとともに、バックナンバーを揃えたり、雑誌の欠号補充をして、利用面に遺漏のないように万全を期したいと思っている。

歯学部が設置されてから日も浅く、全てがこれからといった感じの強い図書室であるが、学生に対しては、閲覧および貸出等を通じて学習と教養の場としての図書室の整備充実を図り、研究面においては、歯学に関する学術の研究に支障のないようにするため、図書に関する業務がその本来の使命を十分に発揮し、歯学部の教育、研究に資するように、図書室の管理運営の基本的方針を思索中の昨今の教務掛である。

部 局 別 蔵 書 冊 数 (昭和44年3月31日現在)

部 局	和 書	洋 書	計	備 考	部 局	和 書	洋 書	計	備 考
文 学 部	87,590	63,244	150,834		水 産 学 部	37,531	21,866	59,397	
教 育 学 部	15,178	10,299	25,477		教 養 部	14,598	8,671	23,269	
法 学 部	32,558	62,449	95,007		低 温 科 学 研 究 所	3,413	5,733	9,146	
経 济 学 部	38,576	24,574	63,150		応 用 電 気 研 究 所	2,362	3,115	5,477	
理 学 部	25,616	65,731	91,347		触 媒 研 究 所	1,018	2,183	3,201	
医 学 部	34,291	47,607	81,898	附属病院を含む	結 核 研 究 所	1,356	1,769	3,125	
歯 学 部	980	240	1,220	"	事 務 局	434		434	
薬 学 部	762	1,555	2,317		学 生 部	126	48	174	
工 学 部	79,233	76,855	156,088	工業教員養成所を含む	附 属 図 書 館	181,709	74,892	256,601	
農 学 部	94,989	71,412	166,401	附属農場，附属演習林を含む	合 計	657,498	550,242	1,207,740	
獣 医 学 部	5,178	7,999	13,177						

昭和43年度部局別図書、雑誌受入冊数

部 局	和 書					洋 書					備 考
	購入単	購入雑	寄贈単	寄贈雑	小計	購入単	購入雑	寄贈単	寄贈雑	小計	
文 学 部	3,172	281	590	490	4,533	5,010	406	252		5,668	
教 育 学 部	1,202	97	66	15	1,380	573	240			813	
法 学 部	555	271	246	857	1,929	1,747	1,068	176	796	3,787	
経 济 学 部	961	196	1,010	451	2,618	988	408	12	12	1,420	
理 学 部	1,207	34	120	113	1,474	2,106	614	206	268	3,194	
医 学 部	1,289	397	47	178	1,911	815	981	76	29	1,901	附属病院を含む
歯 学 部	425				425	43				43	"
薬 学 部	194	10	12	29	245	93	505	85	109	792	
工 学 部	4,483	468	457	396	5,804	2,092	1,248	129	146	3,615	工業教員養成所を含む
農 学 部	3,724	436	176	823	5,159	1,181	674	30	75	1,960	附属農場，附属演習林を含む
獣 医 学 部	98	56	11	151	316	277	219	13	140	649	
水 産 学 部	1,162	395	8	113	1,678	403	444		115	962	
教 養 部	3,028	132	100	60	3,320	1,268	81	149	2	1,500	
低 温 科 学 研 究 所	53	12	3	46	114	92	185	18	42	337	
応 用 電 気 研 究 所	116		1		117	167	169	3	274	613	
触 媒 研 究 所	38				38	130				130	
結 核 研 究 所	13		8		21	49		3		52	
事 務 局	71				71						
学 生 部	126				126	48				48	
附 属 図 書 館	4,144	615	1,454	654	6,867	439	105	1,118	262	1,924	
小 計	26,061	3,400	4,309	4,376	38,146	17,521	7,347	2,270	2,270	29,408	
合 計						67,554					

昭和43年度 附属図書館利用統計表

○開架図書閲覧室利用統計表

入室者数統計表

(開館日 281日)

区 分	文学部	教育学部	法学部	経済学部	理学部	医学部	歯学部	薬学部	工 学 部 (工業教員養成 所を含む)
入室者 率	5,276 6.5	1,955 2.4	14,769 18.2	5,547 6.8	10,493 12.9	3,829 4.7	11 0.0	1,802 2.2	6,568 8.1
区 分	農学部	獣医学部	教養部	大学院生	教 官	職 員	学外者		合 計
入室者 率	3,570 4.4	230 0.3	26,422 32.5	219 0.3	5 0.0	86 0.1	584 0.6		81,366人 100%

館内閲覧統計表

類 別	0	1	2	3	4	5	6	7	8
冊 数 率	510 0.5	3,581 3.6	335 0.3	20,265 20.4	1,033 1.0	19,904 20.1	5,714 5.8	1,814 1.8	4,926 5.0
類 別	9	辞 書	教官指定	文 庫	新 書	雑 誌	その他		合 計
冊 数 率	4,428 4.5	9,384 9.4	16,340 16.5	1,396 1.4	1,172 1.2	8,462 8.5			99,264冊 100%

○語学演習室利用統計表

(開館日 252日)

区 分	文 学 部	教育学部	法 学 部	経済学部	理 学 部	医 学 部	薬 学 部
利用数 率	617 7.7	167 2.1	495 6.2	919 11.4	558 7.0	785 9.8	46 0.5
区 分	工 学 部 (工業教員養成 所を含む)	農 学 部	獣医学部	教 養 部	大学院生	そ の 他	合 計
利用数 率	430 5.3	449 5.6	6 0.1	2,880 35.9	521 6.5	155 1.9	8,028人 100%

○参考図書閲覧室利用統計表

区 分	文 学 部	教育学部	法 学 部	経済学部	理 学 部	医 学 部	薬 学 部	工 学 部
利用者 率	1,071 12.4	253 2.9	2,631 30.6	1,582 18.4	599 6.9	237 2.7	32 0.4	584 6.8
区 分	農 学 部	獣医学部	水産学部	教 養 部	各研究所	学 外 者		合 計
利用者 率	360 4.3	2 0.0	5 0.1	843 9.8	3 0.0	418 4.7		8,620人 100%

○一般図書閲覧室利用統計表

館内閲覧統計表

(開館日 293日)

区分	文学部	教育学部	法学部	経済学部	理学部	医学部	薬学部	工学部 (工業教員養成所を含む)
人数	217	35	366	132	137	38	7	72
率	11.3	1.8	19.1	6.9	7.1	2.0	0.4	3.7
冊数	427	57	642	263	260	84	7	143
率	11.4	1.5	17.1	7.0	6.9	2.2	0.2	3.8
区分	農学部	獣医学部	教養部	大学院生	教 官	職 員	学外者	合 計
人数	64	8	552	51	22	28	190	1,919人
率	3.3	0.4	28.8	2.7	1.1	1.5	9.9	100%
冊数	110	17	957	113	46	58	573	3,757冊
率	2.9	0.5	25.5	3.0	1.2	1.5	15.3	100%

館外貸出統計表

区分	文学部	教育学部	法学部	経済学部	理学部	医学部	薬学部	工学部 (工業教員養成所を含む)
人数	925	163	1,109	569	337	138	32	197
率	10.3	1.8	12.3	6.3	3.8	1.5	0.4	2.2
冊数	1,278	201	1,423	770	407	152	35	261
率	4.6	0.7	5.1	2.8	1.5	0.6	0.1	0.9
区分	農学部	獣医学部	教養部	大学院生	教 官	職 員	学外者	合 計
人数	176	3	1,800	1,585	1,453	455	40	8,982人
率	2.0	0.1	20.0	17.6	16.2	5.1	0.4	100%
冊数	220	3	2,182	4,298	15,671	755	110	27,766冊
率	0.8	0.0	7.8	15.5	56.5	2.7	0.4	100%

○学外への文献複写申込件数表 (参考掛経由)

区分	文学部	教育学部	法学部	経済学部	理学部	医学部	薬学部	工学部	農学部
件数	257	46	70	63	79	2	16	178	118
区分	獣医学部	水産学部	教養部	低温科学 研究所	応用電気 研究所	触 媒 研究所	結 核 研究所	館 内	合 計
件数	23	4	2	8	8	1	1	6	882件

うち国外申込件数 159件 (アメリカ 126, イギリス 16, フランス 7, その他 10)

昭和 43 年度 オフセット印刷業務実績表

	館 内	部 局	合 計
件 数	289	14	303
製 版 数	1,733	405	2,138
印 刷 枚 数 (B4)	312,018	12,534	324,552
印 刷 枚 数 (カード)	115,645 (部局分を含む)	—	115,645
製 本 冊 数	17,741	340	18,081

昭和 43 年度 マイクロ・電子複写業務実績表 (館内分を除く)

区 分	学 内 (校費)				学 内 (私費)				学 外				合 計			
	件数	枚数	単価	金 額	件数	枚数	単価	金 額	件数	枚数	単価	金 額	件数	枚数	単価	金 額
基本料金	25	25	50	1,250	40	40	50	2,000	103	103	50	5,150	168	168	50	8,400
マイクロ フィルム	15	3,283	8	26,264	23	7,612	8	60,896	101	6,964	10	69,640	139	17,859		156,800
A	5	11	3,857	20	77,140	20	2,749	20	54,980	10	1,859	25	46,475	41	8,465	178,595
B	5	5	159	30	4,770	12	1,276	30	38,280	7	197	40	7,880	24	1,632	50,930
A	4	2	717	40	28,680	1	140	40	40	2	22	50	1,100	5	740	29,820
B	4	1	660	360	3	10	60	600	2	7	70	490	6	23	1,450	
特 撮	3	4	2	8	8	52	2	104	5	49	2	98	16	105	210	
容 器 代	10	10	10	100	19	19	10	190	101	101	10	1,010	130	130	1,300	
送 料				0	1			40	85			5,220	86		5,260	
小 計	27			138,572	48			157,130	104			137,063	179			432,765
電子複写	118	3,728	30	111,840	1,004	19,074	30	572,220	730	19,964	35	698,740	1,850	42,766		1,382,800
送 料	82			5,300	25			1,775	609			51,560	716			58,635
小 計	118			117,140	1,004			573,995	730			750,300	1,852			1,441,435
合 計	145			255,712	1,052			731,125	834			887,363	2,031			1,874,200

昭和 44 年度 道地区大学図書館協議会および第 13 回道地区
大学図書館職員研究会当番館決定について

協議会 (期日未定) 室蘭工業大学
研究集会 (8月22日(金)) 北海学園大学

○附属図書館閲覧課に課長補佐置かれる

4月1日から附属図書館に教養分館が設けられたことに伴い、閲覧課に新たに課長補佐が置かれた。これにより附属図書館は、整理、閲覧両課に課長補佐が置かれることになり、図書館業務の近代化、機械化等をより力強く推し進めていくことが期待される。

◆人事往来

新図書館委員

教養分館, 分館長	阿 部 保 (4月1日付)	農学部, 教授	高 嶋 正 彦 (6月1日付)
事務局, 事務局長	吉 田 勇 (")	応用電気研究所, 教授	羽 鳥 孝 三 (4月1日付)
文学部, 教授	関 清 秀 (")	触媒研究所, 教授	中 村 孝 (")
教育学部, 教授	上 杉 重二郎 (5月1日付)	結核研究所, 教授	大 原 達 (")
法学部, 助教授	米 倉 明 (4月1日付)	教養部, 教授	北 村 文 治 (")
経済学部, 助教授	石 坂 昭 雄 (")	教養部, 助教授	渡 会 彰 彦 (")
理学部, 教授	都 筑 俊 郎 (")		
薬学部, 助教授	永 井 右 近 (5月1日付)		
工学部, 教授	諸 住 高 (6月1日付)		
教養分館長	阿 部 保 (文学部教授)(4月1日付)		
閲覧課長補佐	宮 部 徹 (工学部図書 _{新長})(4月10日付)		

北海道大学附属図書館報 「楡蔭」 Vol. 3, No. 3 (通巻15号)

1969年5月31日 発行 発行人 育 木 一 郎

発行所 北海道大学附属図書館 札幌市北8条西5丁目 電話代表 71-2111 (2966)

印刷所 文栄堂印刷所 札幌市北3条東7丁目 電話 23-5560